

精神看護学実習

ナンバリング:N3-S1-I04

責任者・コーディネーター	地域包括ケア講座 熊地 美枝 准教授		
担当講座・学科(分野)	地域包括ケア講座		
対象学年	4	区分/単位数	実習/2単位
期間	前期		

・学修方針(講義概要等)

精神疾患患者にかかわり、セルフケアの視点でその人の体験、病態や症状、生活上の問題等を統合して理解するとともに、対人関係のプロセスを通して看護援助を行う。また精神科病棟、精神科デイケアや地域で行われているさまざまな治療的なアプローチを学び、多職種の役割や精神疾患患者が利用できる社会資源について知る。さらにセルフケア能力を高め、自立に焦点を当てた具体的な看護援助方法を考え、精神科における看護の役割を理解する。
--

・教育成果(アウトカム)

精神疾患患者とのかかわりを通して、その人の生活背景とこころの病いとの関連を理解する。患者の生きにくさやストレングスを知り、それらに寄り添うケアの技術とともに精神科看護師の果たす役割を学ぶ。また、多様な治療・ケアの方法や多職種協働を体験し、異なる視点や専門知識を統合する能力を高め、より包括的で効果的なサポートを患者に提供するための基盤を築く。特に、患者のリハビリを支援する役割(「その人らしさを支援する」ことを意味する)を具体的に学び、患者の自己実現を促進するための関係性を構築する方法を理解する。	
【学位授与方針と当該授業科目との関連】 本科目は、本学部の以下のディプロマ・ポリシーに関連する。	
1	医療人としての全人的人間性をもち、豊かな教養を身につけ、常に自分を振り返る、謙虚な態度を持つ。
2	生命の尊厳と人間としての基本的権利を擁護し、人々の苦痛や苦悩を共感的に理解できる。
3	看護の専門職性及び看護の発展に貢献できる基礎的能力を持つ。
4	看護職者として、さまざまな健康上の課題に気づき、課題に応じて、創造的に看護を実践できる基本的な知識と技術を身につける。
5	患者との関係性のアセスメントを行い、看護を受ける人が自ら持つ力を高められるような援助理論と方法を身につける。
6	災害等の危機的状況においてもできるかぎり平常時と同様のケアを提供できるような構想力を身につける。
7	保健医療福祉システムの中で、多職種連携を図り、看護の機能と看護職者の役割を理解し、調整機能を果たすための基礎的能力を身につける。
8	コミュニティにおいて、医療職福祉職以外の人や機能と連携し、健康上の課題の解決に向けたネットワークが形成できるように看護職者の地域活動の機能を理解する。

・到達目標(SBO)

1. 精神障害を持つ人々の価値観と人権を尊重しながらかわり、効果的な援助関係を築くことができる。
2. 精神障害を持つ人の病態や症状、生活上の生きにくさ及びストレングスを全体として理解することができる。
3. 対人関係のプロセスを通して、生活援助の実践ができる。
4. 病院や地域支援施設で行われているさまざまなアプローチを学び、精神障害をもつ人を取り巻く多職種の役割や連携を知り、社会のなかでどのように支えられているかについて理解できる。
5. 実習全体を通して、その学びをまとめることができる。

・実習日程

日程	各グループの実習期間は実習要項等に記載する。
担当教員	地域包括ケア講座 遠藤 太 教授 熊地 美枝 准教授 高崎 邦子 講師
授業内容/到達目標	【授業内容】 1 実習オリエンテーション ・実習目標と実習環境、実習方法、実習チーム編成等を理解する。 2 病棟実習 ・精神科病棟の治療構造、人権擁護、入院形態、患者構成、看護体制等を理解する。 ・患者、家族との関係性の確立を図る。 ・情報収集と関係性のアセスメントを実施する。 ・患者との相補的なコミュニケーションを記録する。 3 地域支援施設実習 ・地域で行われているさまざまな治療アプローチについて理解する。 ・患者ケアを通して、多職種連携を理解する。 ・精神障害をもつ人を支える、社会のしくみについて理解する。 4 プロセスレコード及び異和感の対自化共有会 ・印象に残った患者とのかかわりの場面をプロセスレコードに記載し、グループ全員で共有する。 ・上記で、特に気がかりの残る場面に「異和感の対自化」を行い、グループ全員で共有する。 5 中間・最終カンファレンス ・実習での体験を自由に発表して、互いの学びを共有し、看護実践を振り返る機会とする。 *詳細は実習要項に記載する。 【関連するSB0】1, 2, 3, 4, 5 【事前学修:150分(実習初日までに終わらせておくこと)】 精神看護に関する基本的知識について課題を出す。課題について、疑問に思ったこと、分からないことについては、そのままにせず教科書や授業で作成したportfolioを用いて調べたり、質問したりすること。精神看護学演習で行った、ケアの方法について確認し実施できるように準備すること。 【事後学修:150分/9日間】 「日々の記録と振り返り」に受け持ち患者と関りから気づいたことと気づきに対する自分の反応(いたことや行ったこと)や感じたこと、考えたことを記載する。「プロセスレコード」「異和感の対自化」等の記録物を記載する。最終日はレポート作成を行う。

・教科書・参考書等

		教:教科書	参:参考書	推:推薦図書
	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1]精神看護の基礎 第6版	武井麻子	医学書院	2021
教	系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2]精神看護の展開 第6版	武井麻子	医学書院	2021

・成績評価方法

【総括的評価】 精神看護学実習評価表に基づき評価する。なお評価は患者やスタッフへの対応、記録、カンファレンスの参加態度等によるルーブリック評価とする。 【形成的評価】 実習日には、毎回全体カンファレンス(1回1時間)を実施。その日に体験したこと、疑問点などをディスカッションしながら学生個々の達成度を確認する。また、1週目の最終日に中間カンファレンス及び中間評価を実施し、評価表を用いながら、達成度の確認を学生と教員で共有する。
--

・特記事項・その他

【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】 提出された記録は、評価後、適宜コメントを付し返却する。 【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】 看護師(別表3):臨地実習 精神看護学 【実務家教員担当授業の有無、実務家教員の実務経験の内容及び授業との関連】 当該科目に関連する実務経験の有無 有 ・精神科における看護師の実務経験を有する教員、精神看護専門看護師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する知識・技術を用いて、実習指導にあたる。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習要項に記載する。			